

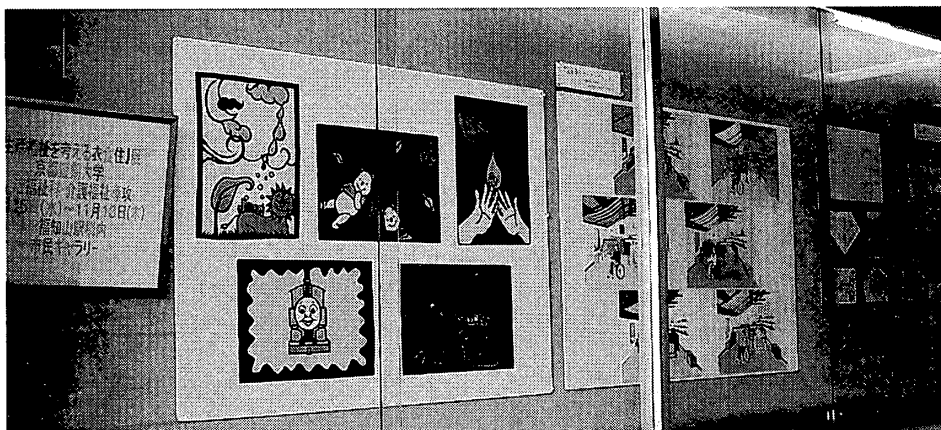
駅前展示「生活福祉を考える衣食住展」

生活福祉科介護福祉専攻

田 岡 洋 子

介護福祉士養成施設になって早や7期生を養成している。毎年の展示とはいえ、市民の方々から注目していただいていることを忘れずに、作品はすべてその年の2回生のものを展示している。その年々によっては学生気質が異なり、いろいろ考えながら同じような作品であったり、全く異なったものを展示できたりする。

今回は「ピアヘルパー」の特別授業を利用して、全学生の意見をまとめることができた。春の特別授業から始めて、12月中旬の資格認定試験に間に合わせるべく、特別授業や特訓などをし、9割近くの学生が努力して、資格を取るための勉強をした。その研修のエンカウンター・ショートエクササイズの一つとして、実施した「学校を10倍楽しくする方法」を各学生が現状を踏まえて付箋紙に思いつくまま、たくさんのアイデアを出し、KJ法で整理をして、まとめた模造紙を3枚展示した。ただ、アイデアは介護福祉専攻2回生全員の意見ではあるが、KJ法は田岡ゼミ生がしたもので、そのまとめ方について、後日全員から意見を求めた。それを私なりに再度KJ法により整理をして、実現可能なことは、実現し、より学生達の意見を反映した短期大学として、勉学にキャンパスライフに楽しみ、資格を修得して満足感を持って卒業し、その後も先輩達と同様、情報を持って学校へ遊びに来てもらいたいと考える。図は全員のアイデアをKJ法により整理したものである。一般企業でもKJ法はよく使われ、新しいアイデアや商品になっている。図のように「勉学」と「キャンパスライフ」の2つに大きく分け、その中でも授業に対しては、介護福祉士の課程認定のための科目（厚生労働省が決めた科目）を2年間で修得するためには、たいへんハードである。そのためにストレスがたまり、「くつ



受理：2004年1月16日(成美学会)

学校を10倍楽しくする方法

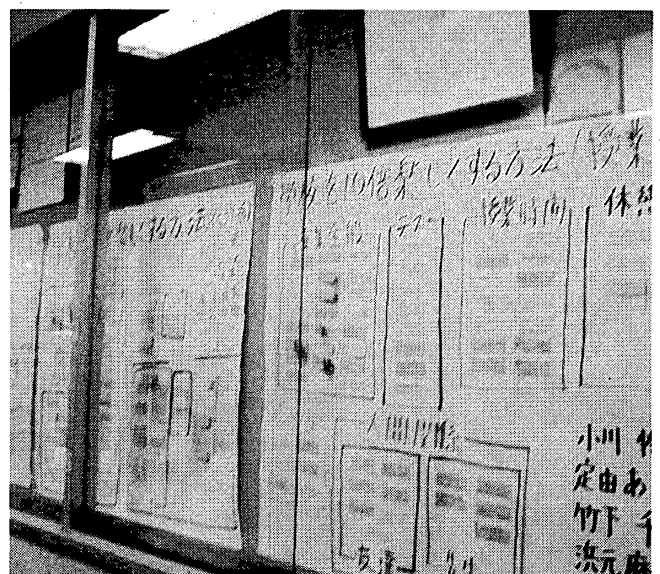
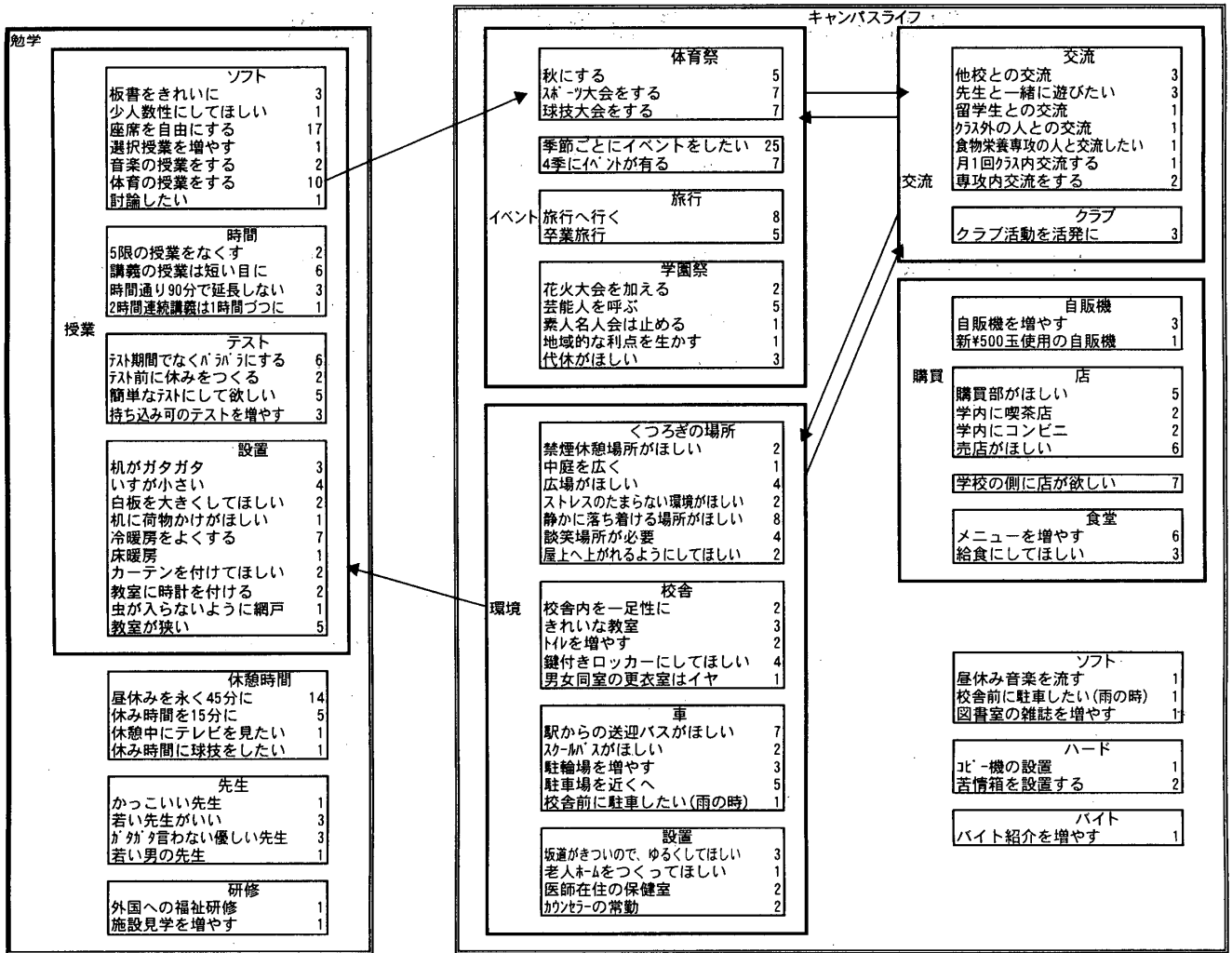


表 学校を10倍楽しくする方法 頻度数でソート

大きな題	小さな題	タイトル	頻度数	詳細内容
イベント		季節ごとにイベントをしたい	25	キャンプ・花見・水泳大会・音楽会・スキー等
授業	ソフト	座席を自由にする	17	
休憩時間		昼休みを永く45分に	14	
授業	ソフト	体育の授業をする	10	
イベント	旅行	旅行へ行く	8	
環境	くつろぎの場所	静かに落ち着ける場所がほしい	8	
環境	車	駅からの送迎バスがほしい	7	
授業	設置	冷暖房をよくする	7	
購買	店	学校の側に店が欲しい	7	書店・カラオケボックス・携帯ショップ・
イベント	体育祭	スポーツ大会をする	7	サッカー・バスケ・バレーボール・ソフトボール・マラソン
イベント	体育祭	球技大会をする	7	
イベント		4季ごとにイベントが有る	7	
授業	テスト	テスト期間でなくバラバラにする	6	
購買	食堂	メニューを増やす	6	
購買	店	売店がほしい	6	
授業	時間	講義の授業は短い目に	6	
勉学	休憩時間	休み時間を15分に	5	
授業	テスト	簡単なテストにして欲しい	5	
授業	設置	教室が狭い	5	
購買	店	購買部がほしい	5	
イベント	体育祭	秋にする	5	
イベント	学園祭	芸能人を呼ぶ	5	
イベント	旅行	卒業旅行	5	
環境	車	駐車場を近くへ	5	
環境	くつろぎの場所	広場がほしい	4	
授業	設置	いすが小さい	4	
環境	くつろぎの場所	談笑場所が必要	4	
環境	校舎	鍵付きロッカーにしてほしい	4	
交流	交流	他校との交流	3	
購買	食堂	給食にしてほしい	3	
交流	交流	先生と一緒に遊びたい	3	
勉学	先生	若い先生がいい	3	
勉学	先生	がたがた言わない優しい先生	3	
授業	ソフト	板書をきれいに	3	
環境	設置	坂道がきついので、ゆるくしてほしい	3	
購買	自販機	自販機を増やす	3	
授業	テスト	持ち込み可のテストを増やす	3	
授業	設置	机がガタガタ	3	
イベント	学園祭	代休がほしい	3	
環境	校舎	きれいな教室	3	
交流	クラブ	クラブ活動を活発に	3	
授業	時間	時間通り90分で延長しない	3	
環境	車	駐輪場を増やす	3	
環境	設置	加圧機の常勤	2	
授業	時間	5限の授業をなくす	2	

設置	ハード	苦情箱を設置する	2
授業	設置	教室に時計を付ける	2
授業	ソフト	音楽の授業をする	2
授業	設置	カーテンを付けてほしい	2
環境	車	スクリーンがほしい	2
授業	設置	白板を大きくしてほしい	2
授業	テスト	テスト前に休みをつくる	2
環境	設置	医師在住の保健室	2
購買	店	学内にコンビニ	2
購買	店	学内に喫茶店	2
環境	くつろぎの場所	禁煙休憩場所がほしい	2
環境	くつろぎの場所	ストレスのたまらない環境がほしい	2
環境	くつろぎの場所	屋上へ上がれるようにしてほしい	2
環境	校舎	校舎内を一足性に	2
イベント	学園祭	花火大会を加える	2
交流	交流	専攻内交流をする	2
環境	校舎	トイレを増やす	2
ソフト		昼休み音楽を流す	1
バイト		バイト紹介を増やす	1
授業	時間	2時間連続講義は1時間づつに	1
ソフト		図書室の雑誌を増やす	1
ソフト		校舎前に駐車したい(雨の時)	1
研修	見学	施設見学を増やす	1
設置	ハード	PC-機の設置	1
先生		かっこいい先生	1
先生		若い男の先生	1
イベント	学園祭	素人名人会は止める	1
イベント	学園祭	地域的な利点を生かす	1
環境	校舎	男女同室の更衣室はイヤ	1
授業	設置	虫が入らないように網戸	1
環境	車	校舎前に駐車したい(雨の時)	1
研修	旅行	外国への福祉研修	1
購買		新¥500玉使用の自販機	1
環境	設置	老人ホームをつくってほしい	1
授業	ソフト	選択授業を増やす	1
休憩時間		休憩中にテレビを見たい	1
授業	ソフト	討論したい	1
授業	設置	床暖房	1
交流	交流	クラス外の人との交流	1
交流	交流	食物栄養の人と交流した	1
休憩時間		休み時間に球技をしたい	1
交流		留学生との交流	1
交流		月1回クラス内交流する	1
授業	設置	机に荷物かけがほしい	1
授業	ソフト	少人数性にしてほしい	1
環境	くつろぎの場所	中庭を広く	1

ろぎの場所」を求めている 23 名 (59%) は今の状態では満足できていないことを示している。

また、イベントをしてほしいと言う意見も多く、32 名 (82%) は季節ごとのイベントをしてほしい。イベントとイベントの間は勉学に力を入れたいということであるが、現状では春秋のイベント (フレッシュマンキャンプ・学園祭・球技大会) では満足できていないことがわかる。また、教室では全員が同じ必須科目の授業を受け、座席を学籍番号順にして、欠席を未然に防ぐことを考えているが、これについても 17 名 (約 44%) が自由に友達同士で座りたいという意見である。選択科目がないために自由さがなく、高等学校の体育の授業を思い出し、身体を動かしたいという衝動から、10 名 (26%) が「体育の授業をし

てほしい」ということである。クラブ活動をすればよいと考えるが、そこまではいかないようである。体育祭や球技大会をしてほしいとの意見も 19 名 (49%) ある。450 時間の施設実習では老人介護施設などへ 2~4 名づつ 3 度に分けて実習させるが、高齢者に楽しみをもってもらうためにもイベントが毎月のように施設ではある。これを考えてか、12 回という訳にもいかないということで、季節ごとのイベントを 32 名 (82%) が望んでいる。その他には旅行や

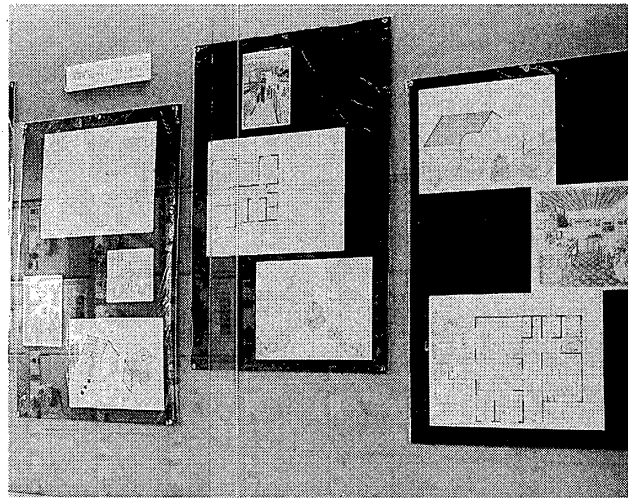
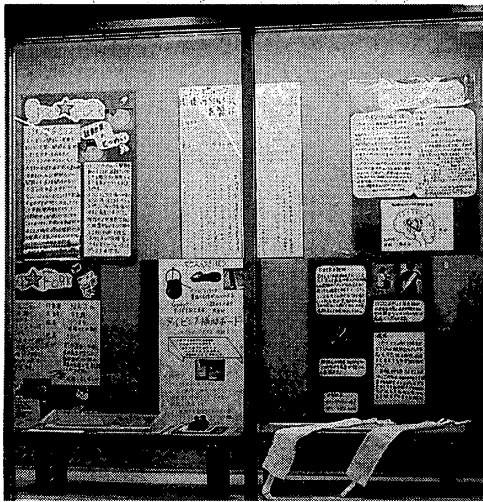


研修旅行などもある。学園祭についても学友会の役員の決定だけでなく、他の意見があり、創成大ではタレントを呼んでいるのに、どうして呼べないのか? という意見もある。

環境を整えてほしいということで、すぐに出来ることや、しばらくは難しいと考えることなど、学生の生の意見を掲載した。特に授業については 1 限から 4 限は必ずあり、5 限の授業も週に数回あるが、時には 15 回の授業に

満たないということで、補講が入ったり、模擬試験があったりで、問答無用という状態での受講である。90分授業が耐えきれなかった新入生時とは異なり、耐えることは出来ても休み時間が10分ではトイレへ行く時間もままならず、昼休みの30分では食堂の行列に時間がなくなり、「給食にしてほしい」という意見も3名(8%)ある。また、最低60点を取らねば、再履修となるために、前後期試験期間にまとめてする定期試験期間が困るとか、テスト前に休暇が欲しいという意見などが16名(41%)ある。地元学生が多く、JR福知山駅よりバス通学(30分に1本)や自転車通学など、列車の都合で無駄な待ち時間が困ると送迎バスの要望も7名(18%)ある。雪の寒い時期には切実である。また、学内外には店がなく、この不便さも22名(56%)が感じている。資格取得を目的に来ているはずと、教員も厳しく指導をするので、ガタガタ言わない若い優しい先生を8名(21%)が望んでいる。これらの事柄を熟慮し、改善できるところはすぐにして、より多くの学生の満足度を増やしたいと考える。

この他には写真のような作品展示もした。



参考文献

- 監修：国分康孝「ショートエクササイズ集」図書文化 2002. 3. 10 P198/9
川喜田二郎著「発想法」中央公論新社 2002. 11. 20
川喜田二郎著「続・発想法」中央公論新社 2002. 6. 20
自己点検・評価委員会「自己点検・評価報告書」京都短期大学 平成15年3月